

- 1、「健康な管理人」と「健康の管理人」とどう違いますか。
- 2、「作文を1時間書いた」と「作文を1時間で書き上げた」の区別を述べなさい。
- 3、「弟はゆっくり休める時間がほしいですね」を正しい文に直しなさい。
- 4、「子供◎」「言葉③」を例に平板型アクセントと尾高型アクセントの区別を述べなさい。
- 5、日本語の畳語を四つ書きなさい。
- 6、「東京湾」「鈴木幸子」をヘボン式ローマ字で書きなさい。
- 7、夏目漱石の作品を二つ挙げなさい。
- 8、日本の自然主義文学の特徴は次のどれに該当するか、記号で答えなさい。
 ア 自然と人生を理想化して表現すること。
 イ 現実暴露の悲哀に徹し、幻滅の苦悩を直接的に描く自伝的作風をもつこと。
 ウ 自然と人生の中から感覚的な美を見出すこと。

問三、次の質問に答えなさい。(12点)

- 1、次の漢字の草書体からどの平仮名ができたのか書きなさい。

以 計 川 止 末 也

- 2、「 」に適当な時詞を書き入れなさい。

時を表す名詞を時詞と呼ぶことがある。時詞には時点を表すものと、期間を表すものがある。時点を表すものは、何らかの時を基点として、そこから数えられたもので、「A 」のように、普通、助詞「に」を伴って用いられる。話し現在の基準にして相対的に名づけられる「B 」などは、普通、助詞「に」を伴わずに用いられる。期間を表す「C 」などは、「に」を伴わない場合と伴う場合とがあり、その表すものに違いがある。

- 3、()に「待つ」の適当な依頼表現を書き入れなさい。

ア、ちょっと()。

イ、しばらく()。

ウ、いましばらく()。

- 4、文語動詞「助く」を活用しなさい。

未然形 連用形 終止形 連体形 已然形 命令形

問四、次の質問に答えなさい。(8点)

1、次の動詞の尊敬語と謙讓語を書きなさい。

行く する 飲む 見る

2、次の古典文を現代日本語に訳しなさい。

a、ゆく川の流は絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

b、一生の恥、これに過ぐるはあらじ。

問五、次の質問に答えなさい。(10点)

1、次の2字漢語の意味関係に当てはまるものを選びなさい。

主述関係 修飾関係 並列関係 補足関係 認定関係

道路 造花 無限 立春 地震

2、乗り物の下位語を和語、漢語、外来語に分けて整理しなさい。

問六、次の段落を読んで質問に答えなさい。(11点)

ア談話の場面・状況から話者の真意を間接的に伝える一種のインアンジ表現がある。「煙草にしましょう。」「お茶でも飲みませんか。」はA()という意味で、ウ隠喩による情報伝達である。文字通りに解すれば構文的意味にしかないものを、場面にエみっちゃくさせて遠回しに文の意味をほのめかす。日本語には日本人特有のこの種の言い方が慣用として数多くあり、日常このような間接的表現でコミュニケーションを行うことが多い。これをB()とよぶ。話し言葉でオたようされる。カ他にどのような例があるか搜してみよう。

1、下線ア～オの平仮名を漢字、漢字を平仮名に書き直しなさい。

2、A()に適当な言葉を書きなさい。

3、B()に入る言葉を次から選んで書きなさい。

a、限定的意味 b、場面的意味

c、結果的意味 d、比喩的意味

4、下線カにしたがって例を一つ挙げなさい。

問七、次の文章の下線部を中国語に訳しなさい。(10点)

京都の嵯峨に住む染織家志村ふくみさんの仕事場で話していたおり、志村さ

んがなんとも美しい桜色に染まった糸で織った着物を見せてくれた。そのピンクは、淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、華やかでしかも深く落ち着いている色だった。その美しさは目と心を吸い込むように感じられた。

「この色は何から取り出したんですか。」

「桜からです。」

と志村さんは答えた。素人の気安さで、私はすぐに桜の花びらを煮詰めて色を取り出したものだろうと思った。実際はこれは桜の皮から取り出した色なのだった。あの黒っぽいごつごつした桜の皮からこの美しいピンクの色がとれるのだという。志村さんは続けてこう教えてくれた。この桜色は、一年中どの季節でもとれるわけではない。桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな、上気したような、えもいわれぬ色を取り出せるのだった、と。

私はその話を聞いて、体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。春先、もうまもなく花となって咲き出でようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裏に揺らめいたからである。花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの先端だけ姿を出したものに過ぎなかった。

考えてみればこれはまさにそのとおりで、木全体の一刻も休むことない活動の精髓が春という時節に桜の花びらという一つの現象になるにすぎないのだった。しかしわれわれの限られた視野の中では、桜の花びらに現れ出たピンクしか見えない。たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はっと驚く。

問八、次の2問から一つ選んで述べなさい。(10点)

- 1、人称代名詞、語種、敬語、感動詞、終助詞などから男性語と女性語の区別を論じなさい。
- 2、「ている」の意味を動詞分類と関連して論じなさい。